

2021年5月16日・佐土原キリスト教会・礼拝説教

聖書箇所：ヨハネ福音書18章12～27節

説教題：弱さがあっても

15年前、私は「急性鬱症」で入院しました。全てに絶望していました。それまでは「イエス様がね…」と神の恵みを語っていたのです。それが、自分自身が一切の希望を否定している状態です。ベッドの中に逃げ込んでいました。「回復プログラム」の集まりにも出ないものですから、元気の良い看護師さんから「起きろー！」と怒鳴られたこともありました。嫌だったのは、食堂で「仕事は何をやっているのか」と聞かれることでした。「キリスト教会の牧師です」と言えないのです。クリスチャンであることも言いたくない。そんな中で、私は自分を呪いました。「なんでこんなことを始めてしまったのか。お前はバカだ」。そうやって全く神の恵みを否定していた私でした。しかし、そこから助け出して下さったのは、やっぱり神様でした。情けない話ですが、今日の聖書箇所を読んで入院の経験を思い出したことでした。

今日の箇所は、イエス様が「前の大祭司アンナス」に尋問される場面を扱う箇所ですが、それ以上に並行して書かれている、ペテロがイエス様を3度否んだ、という内容で印象深い箇所です。

「ヨハネ福音書」が書かれた頃、ペテロはすでに殉教していました。しかし彼は、初代教会を代表する指導者、そしてまた偉大な殉教者として、クリスチャン達の尊敬の対象でした。本来ならそのような人物を引きずり降ろすようなことを書くことは、はばかられたのではないかと思うのです。しかし、4つの「福音書」は例外なく、ペテロのこの失敗を書いているのです。「4福音書」の中で最初に書かれたのは「マルコ福音書」ですが、「マルコ福音書」は、「ペテロが語ったことをマルコが書いた福音書」だと言われます。ということは、ペテロ自身が自分の失敗を書き残そうとしたということです。なぜでしょうか。ヤコブは「私達はみな多くの点で失敗をするものです」(ヤコブ 3:2)と言っています。私達も多くの点で失敗をするものです。私も失敗の連続です。生きている限り、失敗は避けられないと思うのです。その現実があるから、ペテロは「自分の失敗を通して信仰の兄弟姉妹を励まし、さらに大切なレッスンを伝えたい」と思ったのではないのでしょうか。

「内容」と「メッセージ」に分けてお話し致します。

1. 内容～ペテロの否認

初めに簡単に内容を確認します。イエス様は、ゲッセマネの園で逮捕され、大祭司の屋敷に連れて行かれました。ゲッセマネの園から逃げ出したペテロは、大祭司の屋敷までイエス様の後をこっそりつけて行ったようです。そして、大祭司の屋敷に入り込むのです。ここで気になるのは「もうひとりの弟子は…大祭司の知り合いで、イエスといっしょに大祭司の中庭に入った」(15)という言葉です。なぜ、イエス様の弟子が大祭司の知り合いなのでしょう。色々な意見があります。もしかしたら、イスカリオテのユダだけでなく、弟子達は事前に大祭司と何か裏取引をしていたのではないかと、という学者もいます。そうすると、弟子達の裏切りはより一層深刻です。あるいは、この弟子はガリラヤの漁師で、ガリラヤの魚を塩漬けにして、大消費地エルサレムに持って来て大祭司の家にも納めていたのではないかと、という学者もいます。良く分かりません。いずれにしても、もう1人の弟子の手引きで、ペテロも中庭に入ることが出来ました。しかし、門番の女が言うのです。「あなたもあの人の弟子ではないでしょうね」(17)。厳密には「あなたはその人の弟子ではないですよ」という質問です。「違うよ」と答えれば、それで済んでしま

うような尋ねられ方をしたのです。その状況の中で「違う」と言ってしまうのです。恐れのためでしょう。外は寒かったのか、しもべ達や役人達は、炭火を起こして、温まっていました。ペテロもそこにいました。一方、イエス様の尋問(裁判)は続いていました。イエス様は、アンナスの前で毅然として相対しておられます。ペテロの方も、いわば小さな尋問を受けるのです。人々は言います。「あなたもあの人の弟子ではないでしょうね」(25)。ペテロは、ここでも否定してしまいます。「そんな者ではない」(25)。そして3回目「あなたは園であの人といっしょにいました」(26)と言われ、否定した時、鶏が鳴くのです。

他の「福音書」によれば、ペテロはそこでイエスの言葉を思い出すのです。最後の晩餐の時、ペテロはイエス様に言ったのです。「あなたのためにはいのちも捨てます」(ヨハネ 13:37)。それに対してイエス様は言われました。「鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います」(ヨハネ 13:38)。イエス様の言われた通りでした。そして彼は、自分の現実を見せられ、情けなさ、恥ずかしさ、悲しさ、自責の念、そのようなどうしようもない思いを抱えて泣くのです。しかしそれは、彼が「私はイエス様に従うことが出来る、何があっても従うことが出来る」、そう自信を思っていた、自我が崩れ始める時だったのです。彼の本当の悔い改め、そして、赦されることによって成り立つ、イエス様との新しい関係が始まる時だったのです。

2. メッセージ～警告と励まし

この箇所は何を語るのでしょうか。私は2つのことを教えられます。

1) 警告～(主を否定しない)

1つは「主を否定することに対する警告」を語っていると思います。ペテロは、結局イエス様を否定してしまいます。「あなたはイエスの仲間だ」、そう言われて否定するのです。初代教会の人々も「あなたはイエスの仲間だ」、そう言われて迫害されたのです。今の時代に置き換えれば「あなたはキリスト信者だ、あなたが教会に行っているのを知っている」、そう言われることかも知れません。もちろん、そう言って私達を迫害する人はいないかも知れない。しかし、私達はその時、何と返事をするのでしょうか。私達は、状況に支配され易いのではないのでしょうか。まして、そこに恐れや利害が絡めば、信仰を表明することが難しいことがあるかも知れません。しかしこの物語は、「人間は、いざとなったら弱いのだ」と語って、私達を慰めようとする物語ではないと思います。その意味で自分に自信を持っていたペテロが反面教師です。「弱い」ということを自覚して、だから本当に神様に頼って、言うべき時には、「私はイエス様を信じています、教会に行っています」と、慎ましくてもしっかりとと言えるものを持っておきたいと願います。

しかし、私達はもっと表に出ないところで主を否定しているのではないか、この箇所はそれを問うのです。「マルコ福音書」によれば、ペテロは「のろいをかけて誓い始め」(マルコ 14:71)とあります。それは、ペテロが自分を呪った、という意味でもあると思います。どう呪ったの。彼は心の深いところでこう思ったのではないのでしょうか。「なぜ、このイエスという男について来てしまったのか。なぜ『私について来なさい』と言われた時に断わらなかったのか。なぜ、この男に途中で見切りをつけなかったのか。お前はバカだ」、そう自分を呪い、あるいはイエス様まで呪ったのではないかと思うのです。それは、「自分の人生は神の祝福の中にはない」と決めることなのです。そういう形で、神様を、イエス様を否定することなのです。しかし、私達もまた、このようなことをしてしまうことがあるのではないのでしょうか。「自分は神の祝福の中にいるのだ」ということを受け入れない、認めない、否定する。そうやってイエス様を心の中で否定

してしまうことがあるのではないのでしょうか。その意味での「否認」の方が、重大なのではないのでしょうか。

初めに申し上げたように、私は急性鬱で入院した時、自分を呪いました。「なんでこんなことを始めてしまったのか。お前はバカだ」と心の中で思いました。そして、信仰も、神様のことも、どうでも良くなりました。「自分は神の祝福の中にいる」ということを信じることは、とても出来ませんでした。友人が病室を訪ねてくれて言いました。「神はもうあなたのために業を始めておられるのだよ」。それも、とても信じられませんでした。しかし、彼の言った通りでした。その時も私は御手の中にいたのです。その後も「私は神の恵みと祝福の中にいるのだ」と思えないことが何度もありました。自分の信仰の弱さを思うのですが、そうやって、イエス様を否定してしまうことがあるのです。

しかしこの箇所は、そのペテロの様子と並行して、イエス様の様子を記します。イエス様は何をしておられるか。この箇所は、そのペテロのために戦っておられるイエス様を伝えようとしているのではないのでしょうか。ペテロは、1人ではなかったのです。イエス様がおられたのです。ペテロの罪のために、弱さのために、戦っておられたのです。そしてその主の恵みは、彼をまた立ち上がらせて行くのです。

私達の毎日の生活には、色々な状況があります。その中で、現実の問題に翻弄されて、「私は神の祝福の中にいる」ということを信じるが出来ない時もあると思うのです。でもこの箇所は、私達に語るのです。「あなたは神の御手の中にいるのだ。イエスがあなたを守っておられる。神の恵みを否定してはならない」。

2) 慰めと励まし～(主が導いて下さる)

しかしこの箇所は、「イエスを否定してはいけない」と叱咤激励するだけではなく、慰めと励ましも語るのです。ペテロはイエス様の言葉を思い出して泣きました。イエス様はペテロの裏切りを見抜いておられました。ペテロは、恐れと恥ずかしさの中で泣きました。でも「ペテロの物語」は、そこで終わりではなかったのです。その涙を拭って下さる方がおられたのです。イエス様です。

「ルカ福音書」によれば、最後の晩餐の時、イエスはこう言われました。「シモン(ペテロ)、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ 22:31～32)。この言葉は何を意味するのでしょうか。イエスはペテロの裏切りを知っておられた、ペテロ以上にペテロの真の姿を知っておられた、しかしそれを知った上でペテロを赦しておられた、ということです。ペテロの裏切りを赦し、しかも信仰がなくならないように、立ち直ることが出来るように、祈っておられた。ペテロにとって、この言葉がやがてどれほど大きな慰めになっていったことでしょうか。悔い改めを助けたのでしょうか。そして、この言葉をサポートするかのよう、イエスが甦られた日、墓に行った婦人達に天使は言いました。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません…ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおりに、そこでお会いできます。』とそう言いなさい」(マルコ 16:6～7)。ペテロが神の配慮の真中にあるのです。「ルカ 24章 32～34節」には「すぐさまふた

りは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、『ほんとうに主はよみがえって、シモン(ペテロ)にお姿を現わされた』と言っていた」(ルカ 24:33~34)とあります。甦られたイエスは、まずペテロを訪ねて下さったのです。このようにしてペテロは、絶望の涙の中から、イエス様の赦しと慰めと励ましの中で立ち上がって行くのです。やがて弟子達は使徒として任命されますが、ペテロがそのリーダーとされて、彼は伝道の生涯を生きて行くのです。この時にも「あなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ 22:32)、この言葉がどれだけ大きな意味を持ったでしょう。「自分のようなものが…」、彼はそう思ったでしょう。でもイエスは「あなたは(また)兄弟を力づけて行くのだ」と言われたのです。そして彼は、最後は皇帝ネロの迫害の中で殉教して行くのです。バチカンの聖ピエトロ大聖堂は「ペテロが十字架で殉教した、その場所に建てられている」と言われます。ペテロは、証しの生涯を全とうして、見事に天に凱旋して行くのです。

どうして、彼はそういう生涯を生き抜くことが出来たのでしょうか。彼が強かったからでしょうか。そうではありません。彼は、はっきりとイエス様を否定しました、イエス様を捨てました。イエスを信じてついて行った自分を呪い、もしかしたらイエス様を呪いました。でもイエス様が、そのペテロを赦し、包み込み、ペテロの涙を拭い、再び立ち上がらせたのです。涙の中で祈り始めたペテロの祈りに応えて、聖霊の力を覆わせ、その歩みを導いて行かれたのです。ペテロは自分の弱さを知りました。自分の罪を知りました。それだけに「その弱い、罪深い私のために、主は十字架に架かり、私を赦し、導き続けて下さった。私は真実ではなかったけど、主はいつも真実であられた」、そのことを語りたかったのではないでしょか。それを語り、クリスチャン達に「あなたがたとえどんな状態になろうとも、信仰を諦めないこと、希望を捨てないこと、豊かな赦しがあること、私達の主は恵みの神であること」、そのことを言いたかったのではないのでしょうか。私達がどんなに弱い者であっても、失敗しても、主が私達の信仰の歩みを導き、私達のために祈っていて下さるのです。

終わりに

「あなたがどんな状態でも、あなたは神の赦しと祝福の中にいることを忘れてはならない」。ペテロのメッセージを受け止めたいと思います。